

Toshizoプロデュース企画・製作

劇場映画 『ミックスモダン』

配給・上映のためのご協賛のお願い

多くの人とつながっているのに、孤独
誰にも必要とされてない自分

なんで自分は生まれてきたんだろう
人としての自信がほしい

こんな想いを持つひとたちに
この映画を届けたい



【Toshizoプロデュースの理念】

可能性に満ちた想像力豊かな世界を目指す。

『情熱や可能性は目に見えづらいけど、
それこそが何かを生み出すもとになるもの。
情熱は可能性を導き出し、可能性は情熱を後押しする。
小さな可能性が集まり大きな可能性を生み出す。
自分たちのよろこびが、誰かのよろこびになる。』

=Toshizoプロデュースの方針=

「ある役の人間がただそこに生きる」ことに主眼を置き、俳優たちとの対話を重ねて信頼関係を培い、実在する人物を劇中に生み出す。
物語は、教科書的になったり現実離れすることなく、日常の地続きとして捉えられるもので、観客一人ひとりが登場人物の心情や物語の持つテーマについて考えられる「余白」が残されており、観客の視点によってはじめて作品は完成される。

【Toshizoプロデュース代表の紹介】

1956年 大阪・和泉市に生まれる。

1994年 映画・演劇企画集団『Toshizoプロデュース』を発足
オリジナル脚本による舞台公演20作品以上を企画・演出

俳優として・・・

1980年 黒澤明監督『影武者』で映画初出演

1988年 NHK大河ドラマ『武田信玄』

1991年 北野武監督『あの夏、いちばん静かな海。』

1992年 ユニバーサル映画『ミスター・ベースボール』

演出家として・・・

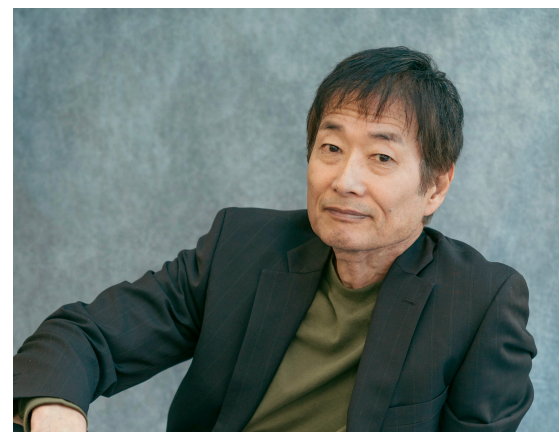
2003年 スペイン各地にてノーベル文学賞J.ヒメネス原作『プラテロとわたし』ヒメネス財団後援

2007年 スペイン・カンタブリアにて日西平和芸術文化祭「Festival de Una Flor」舞台『ひとつの花』

映画監督として・・・

2005年 『シアター』（脚本・監督）がヒューストン国際映画祭にて「Bronze Rem Award」を受賞
NATIONAL THEATER OF YOUNG ARTISTSにて英語教育のためのドラマ映画「POP STAR」制作

2014年 Toshizoプロデュース舞台作品『空の裏側』を映画化、各地で上映され好評を得る



ふじわら としぞう
藤原 稔三

◆◆ 別の顔 ◆◆

2019年に元受刑者の就労支援団体のシンポジウムに参加。
元受刑者によるスピーチを聴き、自身も何か支援をしたいと考える中で
保護司制度を知り、2021年5月より保護司として活動を始める。

私自身のこと、映画を作ろうと決心したきっかけ

私は、昭和31年大阪泉州の綿織物工場を営む経営者の孫に生まれ、幼少期経済的にとても恵まれた生活を送っていました。一方で、三男としてのひがみ根性が強く、特に長女となる妹が生まれたあと、保守的な家風の中で自分はいつも「スペアキー」なんだという自覚がありました。

私が6歳のころ、時代の流れと放漫経営により会社はあっという間に倒産し、その間にも父は家族を顧みず毎日やけ酒を飲んで暴れていました。血を流す母を見向きもせず、叩き壊したタンスの中から私たちの預金通帳をひったくって出ていった姿は忘れられません（数年後父は家を出ていく）。

小さい頃から家庭教師、ピアノ教室など英才教育を受けていた兄は、ある時から父や母からも暴力（主に言葉の暴力）を受け、徐々に精神を病むようになり、後年30年あまりの精神病院生活の後亡くなります。

「スペアキー」だった私は独学で「自分」を作っていました。親に逆らい、腹が立ったら喧嘩をし、平気で嘘をつき、欲しい物があれば盗る……

当然の流れで家裁の世話になり、その時はなんとか観察処分で済みましたが、10代の頃、「スペアキー」は錆びてゴミのようになっていきます。

そんな時、救いになったのが映画でした。映画の中ではすべてつじつまが合う。映画館の暗闇の中では笑っても泣いてもすべて許される。自分は想像の世界を開く「キー」になりたいと思いました。

好きが高じて俳優を目指し、いつか俳優として「喰えた」時期がありましたが、ご丁寧に家風を受け継いだ私は放漫経営の挙げ句、舌癌を患い商売道具の舌を失ってしまいます。なんとか命はつながりましたが、事務所をクビになりいよいよ・・・と思った時、私はまた映画に救われました。毎日毎日映画館をハシゴし、慰められ、勇気をもらいます。

2019年、元受刑者の就労を支援する『職親プロジェクト』のシンポジウムで人生を覆すような出会いがありました。壇上で切々と己の過ちを振り返り、人生をやり直す覚悟ができたと高らかに宣言する元受刑者たちのスピーチ（女性もいました）。虐待を受け、存在を否定されてきた彼らが生まれてはじめて人のあたたかさ生きる意味を知ったと声を詰まらせる。

そんな彼らの親代わりになる覚悟を持って支援する会社経営者たちの姿。

私は会場を出て駅までフラフラと歩きながら、心の底から熱いものが沸き起こってくるのを感じていました。自分もなんらかの形で関わりたい。でも自分には雇えるような会社がない。彼らのことを多くの人に知らせたい。支援する人たちのことをたくさんの人に知ってほしい。自分には一体何ができるんだろう？

…駅の階段に足をかけた瞬間、突然心の中に『映画』という2文字が浮かびました。「そうか、映画か、映画だ！自分にできることはこれしかない！」

私が失意のどん底にいた時、私を見放し去っていく人もいました。しかし、「人に見捨てられても、自分を見捨てちゃだめだよ」「夢を持ち続ければ必ず出会う人がいるから」と手を差し伸べ、勇気づけてくれた人たちの存在がありありと蘇ってきました。あの人たちがいなければ、今の自分はいなかった。壇上の彼らと自分が重なるような体験でした。

私は事あるごとに映画に助けられ、多くの人に救われ、勇気を与えられてきました。今度は、この作品が「やり直せるチャンス」「誰もが持っている小さな可能性」「線引きをしない寛容さ」を実現する「キー」となる。スクリーン越しに出会う人たちの世界を開く「キー」となりたい。

映画『ミックスモダン』が「キー」となるために、この作品を多くの観客に届けなければなりません。それには、皆様のご協力・ご協賛が必要です。ぜひ私達と一緒にこの映画を世に送り出してください。

藤原 稔三

メインテーマ は 命

血のつながった家族から見放され、幼少期から生きることを否定されてきた少年が他者とつながり、その中で「命」を学んでいく。

誰かに傷つけられたとしても、人間に失望するのではなく、
“小さな可能性”をあきらめない。
新たな出会いを求めていく。縁は人を裏切らない。

知ること世界が広がる ～更生保護の重要性～

線引きをしない寛容な社会へ

～やり直すチャンスが負の連鎖を断ち切る～

分かち合う喜び ～ひとりではないと感じられる社会～

映画『ミックスモダン』あらすじ

大阪千日前でお好み焼き店を営む博之(53)と園子(42)。

元従業員が起こした事件により店の経営がままならない中、博之は少年院での面接で「やり直したい！生まれ変わりたい！」と訴えかけてくる勇人(18)を雇い入れることを決める。親に身元引受けを拒否されている勇人。一方、博之には若い頃に道を踏み外し、弟を族グループのリンチで失ってしまった過去がある。

仮出院後、社員寮での生活がはじまり必死で仕事を覚えようとする勇人。初めての給料で父へのプレゼントを買い、届けに行くが父は知らぬ間に引っ越していた。幼い頃母に捨てられ、父との唯一の連絡手段の電話も通じず、ふたたび親に捨てられた勇人は、博之ではなく過去の窃盗仲間・拓巳に連絡を取ってしまう。ある日、拓巳に連れられたクラブで幸杷(ゆきは：17)と運命的な出逢いをする。

「前の男とは別れる。いっしょにやり直そ」と約束し、一緒に暮らし始めようとする二人の交際は勇人の勤務態度にも影響を及ぼす。突然幸杷の姿が消えたことをきっかけに勇人は店で次第に孤立、暴走していく。博之と園子は身元引受人として、一人の人間として勇人に何ができるのか。勇人自身も未来への選択を迫られる事態に直面していく。



撮影期間

2023年2月中旬～4月上旬の延べ4週間

大阪・東京で撮影

『千房』千日前本店（お好み焼き店）

加古川学園（男子少年院）

交野女子学院（女子少年院）他

完成予定

2024年4月下旬

一般公開

2025年以降を予定

上映時間

約110分

今後の目標

国内及び国際映画祭への出品

全国映画館での公開

少年院・刑務所や関連施設での上映



CAST -キャスト-



井戸大輝



サーシャ



常石梨乃



藤原稔三



伶以野陽子



二階堂智



矢田政伸



花澤豊孝



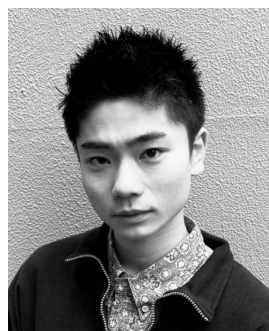
與儀慎太郎



廣田智



ましろうみ



遠藤稔文



重松愛子



ふじわらまりこ

【特別出演】

藤田朋子

映画の宣伝や上映に必要な資金 8百万円

映画上映支援・ご協賛コース

	Aコース	Bコース	Cコース	Dコース
対象	個人	個人・企業・団体	個人・企業・団体	個人・企業・団体
協賛金額	1口：1万円（4口まで）	1口：5万円（1口まで）	1口：10万円（4口まで）	1口：50万円（最大100口まで）
ウェブサイトにお名前掲載	○（小サイズ）	○（小サイズ）	○（中サイズ）	○（大サイズ）
映画エンドロールにお名前・ロゴ掲載		○（小サイズ）	○（中サイズ）	○（大サイズ）
ポスター・チラシにお名前・ロゴ掲載				○
劇場鑑賞券	1口：1枚送付	1口：5枚送付	1口：10枚送付	1口：50枚送付
映画パンフレット		1口：1部送付	1口：2部送付	1口：10部送付
映画パンフレットに広告掲載				○

※お名前、企業名、団体名の掲載をご希望されない方は、その旨ご連絡ください。ニックネームの掲載も可能です（10文字まで）

ご協力いただいている企業様

千房株式会社様

☆大阪千日前本店の店舗ご提供(撮影場所として)

☆出演者たちへのサポート

(実店舗での調理場・ホール研修)



研修風景

千房株式会社 代表取締役会長 中井政嗣様

からの応援メッセージ

監督自ら、出演俳優と共に千房にて職場体験を重ねたり、職親プロジェクトのシンポジウムに何度も参加し、更生保護ということ掘り下げようとする姿勢に感銘を受けてきた。

物語のリアリティを作り上げようとする監督の情熱、『命』という普遍的なテーマを持つこの作品の完成を心から応援しています。

ご協賛方法 以下①～②のいずれかからお申込みください。

① 映画『ミックスモダン』公式サイトからお申込み。

ミックスモダン公式サイト
で検索するか、
右のQRコードを読み取ってください。



映画公式サイト

② メール（mixmodern.movie@gmail.com）に下記を明記の上、ご送信。

件名「ミックスモダン協賛の件」

- ・お名前
- ・ご希望のコースと申込口数
- ・ご住所、連絡が取れる電話番号

ご協賛金お振込先

下記銀行口座にお振込みをお願いいたします。

こちらにご連絡がない場合、お名前の掲載等ができませんのでご注意ください。

※振込手数料につきましては、誠に恐縮ではございますが、ご負担をお願い申し上げます。

三菱UFJ銀行 泉ヶ丘支店（451）

普通口座 番号：0291004

名義：トシゾープロデュース

ご不明な点がございましたら、mixmodern.movie@gmail.com か
090-6026-8494（担当：大島あまね）までお問合せください。

ご後援 和泉市 和泉市教育委員会